

# 名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2024年3月19日

学部・学科名 外国語学部・フランス語学科

担当教員氏名 木内 堯

1. 区分	中期留学 ・ <b>語学研修</b> ・ 海外実習
2. プログラム名称	春期フランス研修
3. 渡航先国名	フランス共和国
4. 派遣期間	2024年 1月 31日(水) ~ 2024年 3月 4日(月) 34日間
5. 派遣先教育機関名	アンジェ西部カトリック大学
6. 参加学生数	34名
7. 派遣目的	フランス語の語学力の向上とフランス語圏文化へのより深い理解を目的とする。研修先においては、語学・文化に関する学習および実地研修を行う。また、市内及びロワール地方へのエクスカーションによりフランスの歴史・文化への理解を深める。
8. 派遣内容	フランス語学科の1、2、3年生を対象にフランスの大学で4週間のフランス語プログラムを実施した。4週間の授業と文化研修からなるすべてネイティブ講師によるフランス語研修プログラムであり、海外研修として4単位に相当する。
9. 成果	最終週に試験が実施され、参加者全員が合格となった。また、授業及びホームステイを通じて、4週間に渡ってフランス語の環境に身を置いたことで、特に会話や聞き取りを中心に、フランス語力を飛躍的に向上させることができた。帰国後に実施したアンケートでは、長期留学への意欲が増したといった感想も数多く見られた。
10. 備考	

以上

## 2023 年度 春期フランス海外研修レポート

提出者：仲川 諒

所 属：フランス語学科 1 年次

この春期フランス研修は、私にとって初の海外渡航でもあったため最初は文化の違いに驚かされることが多く、日本を恋しく思う時もあったが次第に身に馴染んでいき、研修が終わりに近づくにつれて「日本に帰りたくない」という気持ちが強くなった。今でも密かに「誰か今すぐフランスに連れて行って欲しくないか…」と待ち望んでいる。

パリで見た景色には日本では絶対に見られない美しさがあり、写真で見るのとは何倍も違ったため終始圧倒されていた。エッフェル塔はもちろん、凱旋門やコンコルド広場とオペリスク、ルーヴル美術館のピラミッドにモナリザ、セーヌ川のクルーズツアーで見た修復中のノートルダム大聖堂、どれをとっても眼福モノだった。特に凱旋門の大きさは予想より何倍も大きかったのが本当にびっくりした。また、大きさだけでなく壮麗さも相まってどこか畏怖に近いものを感じるほどであった。

アンジェでの生活もとても楽しく、大学で過ごす時間は一度も退屈を感じる事が無かったし、放課後は友達と中心街でショッピングなどを満喫した。大学の授業は上級生と一緒にのクラスに振り分けられてしまったため、まだ習っていない文法が授業で出てくるなど今まで積み上げてきたスキルだけでは太刀打ちできない状況に何度も直面して絶望と同時に泣き出しそうにもなったが、先生や周りの先輩たちが優しく丁寧に解説してくれたおかげで、少しずつ授業についていけるようになり、最終的には先生からの質問に対する返答や、聞き取りなども問題なくこなせるようになったため、同級生との時間を恋しく思うことも少なくなかったが、私はこのクラスに振り分けられて本当に良かったと感じた。放課後のショッピングでは、今まで「人間の食べ物ではない」と罵ってきた大嫌いなマカロンを大好きになったのも良い思い出だ。カフェも数えきれないくらい巡って、コーヒーの素晴らしさに改めて気付くことができた。ホストファミリー(親しみを込めて、以下カトリーヌと表記する)はとてもお喋りで日本が大好きな人だったので話題が尽きず、私の実家が神社を営んでおり、私自身も神事の際には祝詞奏上を行った経験もあったため、カトリーヌの前でそれを披露したり、食事の際に「いただきます」と「ごちそうさま」を一緒に言ったりした。パリで 40 年ほどシェフを務めていただけあって、カトリーヌが作ってくれた料理はすべて美味しく、毎晩「C'est bon !」と言っていた。入居当初は翻訳ツールに頼ってばかりだったが、私がフランス語を話す時に絶対に急かすこと無く、しっかり最後まで私の話を聞いてから会話を重ねてくれたカトリーヌの姿勢に支えられ、終盤ではほぼ翻訳アプリに頼ることがなくなり、自分の力でコミュニケーションが取れることに感動を覚えた。ちなみに、カトリーヌとは現在でも WhatsApp というアプリで連絡を取り合っ

ていて、「次にフランスに来るときにはどこか一緒に旅行に行こう！」という話もしている。本当にカトリーヌがホストファミリーで良かったと心から思う。

ここでサクスの話を挟みたい。私はサクスを吹くことが大好きで、中学一年生の時から今日までずっと続けている。サクスのことでどうしてもフランスで成し遂げたい目標があったため、家族から「荷物になる」「飛行機に乗る時に追加料金を請求されたらどうするんだ」という反対意見もあったが、私はこの研修にサクスを持ち込んだ。その前に、サクスの世界には「世界三大ブランド」というものが存在するということを理解していただきたい。一つ目は「YAMAHA」、二つ目は「YANAGISAWA」と言い、これら二つのブランドは日本のものである。そして最後の三つ目だが、名前を「Henri Selmer Paris(通称セルマー)」というパリに総本店を置くフランスのブランドで、このサクス世界三大ブランドの中で最高級のものであり、サクス奏者であればその名を知らない者はおらず、世界中のプロのサクスプレイヤーの多くがこのセルマー製のサクスを愛用している。また、2023年に日本で公開された「BLUE GIANT」という、漫画を原作とするジャズの映画があるのだが、その作中で主人公が演奏しているサクスもセルマー製で、映画の製作にも実際にセルマーがスポンサーとして協力しており、最終的にフランスのカンヌ国際映画祭で上映されるほどの大ヒットとなった。そして研修開始の直前、そのセルマーがニューモデルのジャズ用マウスピースを開発・発売したのだ。一人のサクスプレイヤーとして、そしてそのマウスピースを実際に購入するため、絶対にこの研修でセルマー総本店に絶対に行くというのが私の目標であった。日本の一般的な楽器店と違い、この店は事前に来店予約をする必要があったため、出国前にフランス語の案内を訳して読みながら、やっとのことで予約を完了させた。この工程が本当に大変だったが、今では良い経験だったと思う。実際に入店すると店内はサクス一色の空間で、また、スタッフの方に日本から来たこと、サクスのために全力で活動していることなどを伝えたところ、ポスター、缶バッジ、ストラップやステッカーなどの非売品グッズをプレゼントしてくれたり、たまたま同日セルマーのスタジオに練習に来ていたヨーロッパのプロのサクスグループの人たちと会話をしたときに「サクス頑張ってるね！ステージに立つときには呼んでくれ！」と応援の言葉をいただいたり、ただただ感動の連続だった。その後アンジェでは練習場所を自分で見つけて演奏したりしていた。その結果、そこから音楽を通じて多くの人々と言葉を交わす機会が増え、コミュニケーションの幅が大きく広がった。セルマーを訪れることだけがサクスを持ち込んだ目標だったので、まさかサクス演奏を通じて自分のフランス語のスキルを向上させるきっかけを掴むことができるとは思っておらず、改めて音楽と言語の強い結びつきを感じた。また、出演はできなかったが現地の音楽会社の人から音楽イベントへのゲスト出演のオファーを受けるなど、他にも非常に貴重な経験を得たと思う。

今回の研修を一言でまとめるとすると「たくさんの人に恵まれた研修」だった。初めにも書いた通り、この研修は私にとって人生初の海外経験だったため緊張や不安に苛まれるこ

とも多かったが NUFSS からの引率の先生方、セルマーのスタッフさんたち、サックスのブ  
ロの方々、アンジェで訪れたお店の店員さんたち、カトリーヌ、UCO の大学の先生方、色々  
な人に支えられたからこそ私はこの1ヶ月を楽しむことができたのだ。心の底から自分は  
幸せ者だと思える瞬間が何度もあった。初めこそ研修期間が1ヶ月あると聞いた時には、  
色々な事が出来るように思えた。しかしいざ経験してみると意外に短く、いくつか達成でき  
なかつた目標もあった。だが私は満足である。なぜなら周りが経験できなかったものを、私  
はたくさん経験できたからだ。それに今回達成できなかった目標は、今後の本格的な留学で  
全て掴み取ればいい。一昔前の時代とは違い、現代は多様性に重きを置く時代のため「確固  
たる多数派」という存在が少ない。そのため、ただ周りの行動に合わせるだけでは特別なも  
のを掴み取ることは困難である。もちろん初めて身を置く環境や状況であれば、そうなって  
しまうのは仕方のないことかもしれない。しかし、周りが皆同じようなことをしている状況  
だからこそ、そこを逆手に取り、勇気を出して少しだけでもルールを外れてみると、そこか  
ら多くの発見につながる可能性が高くなる。この研修で私はその状況に何度も立ち会い、ほ  
んの一握りの勇気で自分の世界はあり得ないくらい広がるということに気付けた。だから  
こそ、今後この研修に参加する人にはフランスの素晴らしさを体感するだけでなく、どんな  
に些細なことであっても自分にしか出来ないことを是非積極的に実践してみることが大切  
だということを伝えたい。きっとそこから語学力の向上だけでなく、自分の中の様々な可能  
性を高めてくれるたくさんの素晴らしい物事に出会えるはずだからだ。本当にこの研修に  
参加して良かった。

## 2023年度春期フランス海外研修レポート

提出者：爲永 菜帆

所 属：フランス語学科 1年次

私は春期休暇の34日間、アンジェ西部カトリック大学での語学研修に参加しました。私は留学経験がなく、長時間フライトや初めてのホームステイなど新しい経験ばかりで期待も不安もたくさん抱きながら臨みました。私を含め34名のフランス語学科生と引率をしてくださった先生方に支えられて、充実した日々を過ごすことができました。

はじめの3日間はパリ観光をしました。ずっと憧れだった世界が目の前に広がり、毎日大感動でした。特にオペラ座のグラン・ホワイエは豪華な装飾で輝いていて、忘れられません。今年は初めて2日目が自由行動で、各々パリを満喫していました。有名な観光スポットを訪れると、本当にフランスにいることを実感でき、これからのフランス生活に胸が高鳴りました。

大学では3つの少人数クラスに分かれてネイティブの先生による授業を受けました。口頭表現、口頭理解、言語、歌の授業があり、なかでも歌の授業は私にとって珍しく、フランス語で歌うのは難しかったですが、フランス語を話すスピードが速くなり、発音の上達につながったと実感できました。どの授業も先生と生徒の距離がとても近く、アットホームな雰囲気のため、間違いを恐れることなく、積極的に発言できる環境でありがたかったです。先生も気さくな方々で身振り手振りを交えながらユーモアたっぷりに教えてもらえて楽しくフランス語を学ぶことができました。

放課後はアンジェの街中を歩いて、ベーカリー巡りやカフェ巡りを楽しみました。本当にフランスのパンはおいしくて、特にクロワッサンダマンドが私のお気に入りです。雨の日がほとんどでしたが、アンジェの街は散策するのにちょうどいい広さで、街並みも美しく治安も良いため、フランスで最も住みやすい街だといわれる理由がわかりました。

大学のプログラム内容もとても充実していて貴重な体験ができました。料理教室でマカロン作りをしたり、休日にはナントやモンサンミッシェル、サンマロ、ロワール古城を観光したりして、フランスを様々な角度から味わいました。治安が心配で一人で遠出することは怖かったため、みんなでアンジェ以外の地方を訪れることができ安心でした。これらのエクスカージョンのおかげで、その地の名物や名産品を知り、フランスの魅力の奥深さを実感することができました。

約1カ月のホームステイが充実した時間になるよう、ホストファミリーは常に私のことを気にかけてくれました。私はもともと友達とペアでホームステイをする予定でしたが急遽変更になり、一人でのホームステイとなりました。ホストファミリーは研修前から積極的に「WhatsApp」という連絡アプリでコミュニケーションをとってくれて私の不安を取り除いてくれました。食事の面では毎日異なるフランスのおいしい伝統料理を味わわせてもら

って、食後には10種類以上のチーズを食べ比べ、フランス人のリアルな食生活を体験できてとても興味深かったです。ホストファミリーと食事をしながら、今日の出来事や料理の説明、お互いの食文化や行事などについて毎日話す時間がとても楽しく、一日の中で一番好きな時間でした。フランス人がよく使う会話表現を覚えることができたり、フランス人の生の声を聞くことができたりしてとても面白かったです。ほかにも一緒に運動したりカードゲームをしたり、のり巻きをつくったりなど、ホームステイは想像していた以上に楽しく、ホストファミリーは私にとって本物の家族のような大切な存在になりました。ホストファミリーはいつでも私が話すゆっくりなフランス語を理解しようと耳を傾けてくれて、私が正しく理解できるまで写真や本を用いて丁寧に説明してくれるなど、とても心優しくてユーモア溢れる素敵な家族でした。私の発音が間違っていて伝わらず翻訳アプリを使おうとしてしまったときも、ホストファミリーは「もう一回言ってみて」と根気強く付き合ってくれました。だからこそ私も臆することなく会話に入っていくことができました。しかし、私が一回で理解できないときに話の盛り上がりを止めてしまうのが申し訳なく、もっと滞りなく話したいというモチベーションになりました。休日はホストファミリーとドライブしたり、ホームパーティーでホストファミリーの家族や友達と交流を深めたりして過ごしました。沢山のひとと話すいい機会をつくってもらえて嬉しかったのですが、日本のことを聞かれたときに返答に困ってしまう場面が多々あり、本当に日本人なのかと疑われるほど自国についてわかっていないと痛感しました。特にフランスでは日本の漫画が大人気で、それについて日本人と語りたい人が多く、相手をはがっかりさせてしまったため、留学前に有名な作品だけでも読んでおくべきだったと後悔しました。一人でのホームステイは常にフランス語を話すしかない環境に身を置くことができ、フランス語の上達にとっても効果があったと感じます。ホストファミリーとは今でもお互いの近況を共有し合っていて、大切にしたいつながりです。

今回この研修に参加したのは、フランス語学力を実際に試して伸ばすことはもちろんですが、3年生で長期留学をするためのプレ期間としての意味ももっていました。フランス人の生活スタイルで過ごしてみても良くも悪くも自分の想像と違うところは沢山ありました。それでも自分がその違いを面白いと感じ適応できたため、やってみればできるという自信がうまれました。1カ月では時間が足りないと感じ、私の中で長期留学が現実味のある目標に変わりました。最初はフランス語で注文しても英語で返答されてしまって悔しい思いをしましたが、めげずに続けて自分のフランス語が通じたときの達成感は忘れられません。正直フランス語縛りの生活に疲れを感じた日もありましたが、周りの友達もモチベーションが高く、覚えたフランス語を日常の中で積極的に使ってともに成長出来たため、良い影響ももらっていました。毎日がとても刺激的で貴重な経験ができました。本当に参加して良かったです。